

# この人に聞く

膨大な社会インフラの老朽化が着実に進み、今後、その維持・更新需要の更なる増加が見込まれる中、アセットマネジメントの国際規格「ISO55001」と一致したJIS規格が、早ければ今秋までに制定される見通しとなった。こうした状況を見据え、5月19日に「一般財団法人日本アセットマネジメント協会」(JAMMジャーナル)が発足している。JAMMの会長に就任した、京都大学経営管理大学院の小林潔司教授・経営研究センター長に、協会発足の目的や今後の活動について話を聞いた。

**JAMM発足の背景** ていくためには、組織的  
1980年代の荒廃 にアセットマネジメント  
する米国と言われた状 トを導入しなければなら  
況に、日本は幸い至って らい。メンテナンスとい  
いないものの、未補修の う狭い領域にとどまら  
変状も蓄積し今後、同じ ず、新規に建設するイン  
ような状況が懸念され フラも含めて、インフラ  
る。これに適切に対応し 全体のポートフォリオ

# アセットマネジメントを定着・普及

をマネジメントするこ い。日本はハードの技術  
とも大切だ。また、新し から見れば世界的に優  
い技術を取り入れなが れていても、マネジメン  
に継続的に、より優れた トは未発達の段階。アセ  
ものに変えていくPD ツトをマネジメントす  
CAサイクルを回すメ るガバナンスを日本に  
カニズムとしてISO 定着させ普及させるこ  
や、アセットマネジメ とを目的にJAMMが  
トの役割は非常に大き 発足した。



日本アセットマネ  
ジメント協会会長  
小林 潔司氏

JAMMの活動 JAMMのメンバーに  
は、ISO55001の 認証機関、その認証取得  
を目指す企業や関心を寄 せる企業・団体、個人な  
どになっていただき「日 本型のアセットマネジメ  
ン」を確立し、発展さ せていく。現在、会員を  
募集中だ。日本は、何と 言っても現場力が凄  
い。これまでに現場で埋もれて いたものをきちんと体系  
化し、それを同じ組織、 国際規格開発活動への  
あるいは次世代の人に伝 えて発展させていくこと  
が必要だ。その見える化 や情報発信をJAMMが  
果たしていく。またJAMMは、日本型のアセツ  
トマネジメントを海外に 展開する重責も担ってい  
る。日本のポトムアップ 型、現場をきちんと回し  
ていくんだという理念。 これに基づく認証事例を  
何とか増やしたい。 認定アセットマネジ  
ヤアの国際資格 世界の様々な入札等  
で、どれだけの方が国際 資格を持っているか大き  
なクレジットになる。JAMMは、認定アセット  
マネージャーの国際資格 検定を行う組織と協定を  
結んだ。日本語版の国際 資格検定の事務局とし  
て、12月に試験を実施す る。その前段で、10月に  
同検定の講習会も開催す る。

## 「日本型」を海外へ、 12月には国際資格も

国際規格開発活動への  
JAMMはISO/T  
の成熟度評価 日本のアセットマネ  
ジメントの技術や実態 を発展させるため、努力  
している組織や人材を 評価する仕組み「日本型  
の成熟度評価」というス キームを世界に提示し  
ていく。すでにオースト リアなどは、それを出  
しているため、協力でき る所は協力しながら、出  
来ないところは闘いな がら、日本の考えるアセ  
ットマネジメントを世 界に打って出たい。

### 参画

6/13 建設通信

# 日本アセットマネジメント協会 小林 潔司氏



「国土交通省を始めとする日本の官公庁(インフラの管理者)がデータを公開するようになったことで、ようやく日本でも一般の国民がインフラの健康状態という点に関心を持つ場面も増えてきた。しかし、国や都道府県レベルでの情報公開は進んでいないが、市町村レベルに目を向ければ、まだその情報がとりま

状をどうみる  
—日本のインフラの現状をどうみる

## 新会長 Interview

ことし5月に設立した日本アセットマネジメント協会(JAAMIIシャーム)。そのかじ取り役を担う小林潔司会長は「ともすれば属人的な経験として現場に眠ってしまっている『知』を体系化して次の世代につないでいく。現場のノウハウを主体とする、いわば日本型のアセットマネジメントの普及や、海外への展開に(JAAMIIが)大きな役割を果たすことになる」と見通す。

とめられていないというのが実情になっている」  
「日本は(建設のピークが)米国に遅れること30年と言われる。単純計算で言えば、80

# 現場に眠る“知”を体系化

年代の『荒廃するアメリカ』と言われた時代に(日本も)差し掛かっていることになる。設計水準や施工技術の向上によって、幸いにしてそのようなクリティカルな状態には至っていないが、10年先、20年先を考えれば、アセットマネジメントを組織的に導入していかねばならない」

「社会的な環境の変化も見据えた総合的な視座に立つて」  
—設立の目的や狙いは

インフラをどうマネジメントしていくか、そこに組織的なガバナンスを働かせるということが最大の目的になる。ステークホルダーに対する情報発信だけでなく、新しい技術の開発や、そのイノベーションの成果をいかに現場に取り込んでいくことができるかが重要だ」

「新しい技術は生まれるが、」  
—協会の今後の活動方針は

日本はそれがうまく現場で実装化されていない。インフラのマネジメントは非常に複雑な仕組みとなるだけに、一気に完成形をつくることは難しい。最新技術を取り入れながら、継続的に改良していく。『メンテナンスマネジメント』という言葉に代表されるように、そのPDCAサイクルを着実に回すことこそがアセットマネジメントの本質ということになる」

メントに(協会が)大きな役割を果たしていきたい」

「(ばやし・きよし) 1978年京大大学院工学研究科修士課程修了。工学博士。鳥取大教授、京大大学院工学研究科教授などを経て、2012年4月から京大経営管理大学院・経営研究センター長。アセットマネジメントの第一人者として、国土交通省社会資本整備審議会の委員などを務める。

### 記者の目

暗黙知を形式知に置き換えるアセットマネジメントの必要性と、それを担う人材育成の重要性を強調する。「大事なのは、この国のアセットマネジメントの技術を発展させていくこと(テック)と、現場主導の『日本型』のアセットマネジメントの普及に闘志を燃やす。「日本のレベルの高さを押し上げる成熟度評価の仕組みを確立することで、日本が考えるアセットマネジメントを世界に提示する、それをもって世界に打って出ていく」と話す姿に船頭としての意識の高さがにじむ。



## 時流自流

14年1月に発行されたインフラのアセットマネジメントシステムの国際規格「ISO55001」の取得を支援しようと、日本アセットマネジメント協会(JAAM)が5月に発足した。会長に就いた小林潔司京大経営管理大学院教授・経営研究センター長は「アセットマネジメントの国際的な展開を敏感に受け止めつつ、日本でのアセットマネジメントの普及と発展に貢献していく」と話す。

——インフラの老朽化が進む中、アセットマネジメントの重要性が一段と高まっている。

「既存インフラのメンテナンスという領域だけでなく、新設するインフラも含め国民の資産であるアセット全体をきちんとマネジメントすることが求められている。安全・安心を第一義に、老朽化した構造物をできるだけ健全な状況に保つ。5年、10年さらには50年という長期的な視点で、高齢化する社会環境の変化も見据えた総合的な視野の

「モニタリングしてデータを集約し、公開する流れとともに、新しい技術やイノベーションの成果を現場に積極的に実装していくことも重要だ。インフラのマネジメントは複雑で総合的なシステムであり、いきなり完成版は作れない。新しい知恵や技術を取り入れながら継続的に改善する。P

DCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを回すこともアセットマネジメント

## 日本アセットマネジメント協会 会長 小林 潔司氏



——国際資格の検定事業にも取り組んでいきたい」

が担う役割だ」

——JAAM設立の目的は。

「アセットマネジメント分野では日本は後発で、ISOの規格化や認証取得などで世界に後れを取っている。だがメンテナンス技術は世界トップクラスの水準だ。現場で個人が持つ技術や知恵を整理・体系化し、それを組織の中や次の世代に伝え、さらに発展させていくことが重要だ。JAAMは、現場のノウハウを主体とした『日本型アセットマネジメント』の確立と発展を第一の目的にしている

る」

——どのような活動を展開していくか。

「日本のアセットマネジメントの技術を発展させていくとともに、日本の考えるアセットマネジメントの姿を世界に発信していくこともJAAMの存在意義だと思つ。ISOは最低限の基準であり、技術に関しては規定していない。特に安心・安全の技術を中心に、組織のアセットマネジメントシステムの成熟度を評価する仕組みを作りたい。JAAMはISOの国内審議団であり、日本の代表としてISOの改定プロセスの中で、日本のアセットマネジメントの考え方を継続して主張していきたい」

## 年内に国際資格検定を実施

「アセットマネジャーの国際的な資格検定を行うワールドパートナーズインアセットマネジメントと協定を結び、日本語版の試験を準備している。10月に講習会を開き、年内にも1回目の検定試験を実施したい。当面は海外で活躍する技術者に国際資格の取得を目指してもらいたい。一流のプロフェッショナルの称号として、インフラ管理者にもぜひチャレンジしてもらいたい」。

◇(こばやし・きよし)78年京大大学院修士課程土木工学専攻修了。同工学部土木工学科助手、鳥取大工学部助教授、同教授、京大大学院教授を経て12年4月から同経営管理大学院経営研究センター長。専門は土木計画学、インフラ経済学。国土交通相の諮問機関である国土審議会、社会資本整備審議会、交通政策審議会の専門委員なども務める。兵庫県出身、63歳。

現場主体の「日本型」確立・発信